

地域に根差した、寄り添った医療を

今回ご紹介する先生は、浜田市下府町のやすぎクリニック・石根 昌幸 先生です。

私は広島県三原市で生まれ、実家は自営業を営んでおりました。両親は家業で忙しくしており、子育ては主に祖母の役割であり、いつも祖母に面倒を見てもらっていました。父も職人であったので、父の仕事を手伝う傍ら、人に接し人が困っていることを助け、喜んでもらえる職業を考えるようになっていきました。その際に、父と同じく家業を継承する生き方と、おばあちゃん子だったため大好きだった祖母のような高齢者に心からの恩返しという意味で、医師を目指すようになりました。大学は、故郷の広島を離れて高知医科大学（現：高知大学）へ入学し、卒業を含めて11年間、南国土佐でいろいろなことを学びました。その後、京都大学医学部老年科に入局し、医員、大学院へと進みました。

京都大学大学院では、京都大学のフィールドサイエンスの流れを医学分野で汲む「フィールド医学講座」に入り、日本の高齢者を研究ベースとして、東南アジアや南米に赴き一年のうちに何度も現地に入り主に高齢者の方の診察、検査などを行っていました。現地で得た研究データをもとに、高齢者を包括的に考え、疾患（disease）、障害（impairment）、日常機能障害（disability）、不利益（handicap）、QOLという側面から捉えるということを学びました。大学院後も数年間はしばらくフィールド医学研究を行っており、高所医学研究などにも参加しておりました。その頃に当時院長を務めていた義父が年をとりそろそろ手伝ってほしいという相談があり、心の中で研究を続けたいという思いがある反面、臨床現場という患者さんのそばで力になっていきたいという思いの方が徐々に強くなり、7年前に妻である副院長（直子）とともに浜田に戻り2代目として継承いたしました。

診療内容は内科系や小児科、外傷、腰痛患者さんも診ており、この地域で調子が悪くなった方を全般的に受け入れています。その中で専門である循環器内科、老年内科は特に力を入れて診ています。当院は昭和53年に理事長である八杉伸輔が開院してから39年が経ち、平成20年にはリフォームを行いました。その結果、安心して快適な環境で医療を受けていただけるような診療所となりました。理事長とともに診療を行い、7年目になりますが、以前から何十年も通院されておられる方もあり、歴史の継承の重みをしめじみと痛感しています。

かかりつけ医としての医療機関の役割は、「地域に住む患者さんの傍らで診療を継続する」という、一見地道ではあるけれども、その毎日の積み重ねこそが、歴史を作り、また真の意味で「地域に根差し、寄り添った医療」と実感しております。だからこそ、浜田の開業医の諸先輩方が実践してきた意義や意味を私も大いに感じている今日この頃です。

現在では、先代を知らない患者さんも増えてきており、日々のクリニックでの診療の他に近隣の施設や在宅へ毎日往診に赴いています。外来診療では時間の制約がありどうしても行き届かない点が今後の課題でもありますが、様々な病気を併せ持つ患者に満足される医療を提供していくには、在宅、診療所問わず、こちらから出向いて行くこと、浜田のみならず、特に過疎化の進む不便な地域での緊急の課題でもあり、そうでなければ、十分な医療を届けることができないと感じています。その一方で、浜田医療



センターの諸先生方に、必要に応じ紹介させていただき、それぞれの専門分野での相談、助力、指導を仰ぎ、スムーズな地域医療連携を結ばせていただいております。

この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

当院のモットーは地域に寄り添った医療です。臨床医は、患者のそばで生き、診療をしていくという考えをいかに実践していくかは、現在およびこれからの課題でもあります。その中で、予防医学を実践しながら、また、すでに罹患している患者さんは、今の状態をできる限り維持して、QOLを保ちながら安心して家で過ごせるように心がけています。高齢者であれば、そういった繋がりをいかに作っていくかが重要だと思います。年齢を問わず地域や家庭、施設で生活する患者がそれぞれに安心して、元気に齢を重ねられるように、また、本人が望み満足して最期を迎えられるような環境づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

インタビューを終えて……………

「休みの日はテニスやランニングをしています。定期的に体を動かして健康チェックをしています。」と語られた先生からは地域を大事にする誠実な人柄が伝わってきました。



やすぎクリニック

院長 石根 昌幸

〒697-0006
島根県浜田市下府町69-1
☎0855-28-1911 FAX0855-28-2360

診療科目／内科、循環器内科、消化器科、神経内科、老年内科
診療時間／毎週月～水、金…8:30～12:30、13:30～18:00
木、土…8:30～12:30 ※急患、往診は随時（24時間体制）
休 診 日／木・土曜日午後、日曜日、祝祭日

Nursing home Introduction

Vol.2

のんびりゆったり、安心して笑顔で過ごせる暮らし

続いてご紹介する施設は、浜田市黒川町の特別養護老人ホーム 偕生園・園長 佐々木 真紀子さんです。

特別養護老人ホーム(特養)は食事や排泄介助など生活全般の介護サービスを提供する常時介護が必要な要介護者の「生活の場」です。入所対象は「要介護度3以上の認定を受けた方」です。当施設は80床(長期入所:70床、短期入所:10床)ありますが、長期入所は300人近い申し込みがあります。短期入所は10床あり、いつでも見学できますのでお気軽にお問い合わせください。

当施設では、毎月1回第3木曜日にどなたでも気軽に参加できるような『寄りあい喫茶 かいせい』を開催しています。11時からコーヒー等(1杯100円)を用意して介護相談を受ける時間をとり、その後希望された方には簡易な昼食を用意して職員も一緒にランチタイムをとっています。13時からさまざまな活動を行う時間にしています。10月はお月見会をしましたが、過去には大人の塗り絵、映画鑑賞会やソーメン流しを行いました。参加された方には来月の予定をお渡しし、近隣の方にもチラシを配って案内しているので定期的に来ていただける方も増えて毎月10~15人ほど参加されるようになりました。当初はこちらから提供することが多かったですが、最近是一緒に何かを作る活動も増えて来園された方同士で会話できる環境づくりをしています。独居の方も多く、近所付き合いも減ってきているのでこういった地域のつながりを大切にしています。



施設に入所された皆様には「その人らしい最期を迎えられるための援助」として、看取り介護に積極的に取り組んでいます。最後まで医療の最善を尽くしたいご家族の意向がある場合は主治医と相談して病院を紹介していただくようにしています。終末期をどのように過ごすのがよいか時期が近づくとき皆さん悩まれる方が多いですが、入所される前にご本人やご家族の方としっかりと話し合いをし、その後もご家族、本人が納得されるまで話し合いを重ねて、ご希望に沿ったサービスを提供しながらその人らしい最期を迎えられるよう職員一丸で取り組んでいます。

近年では重介護状態で入所される方も多く、入所されて1年未満で亡くなる方が増えています。認知症重度であったり、医療的な援助を必要としてベッド上にいる時間が長くなる方が多くなっています。そういった中で少しでも部屋の中で閉じこもらないように外出する機会を



増やし、買い物に出かけたり、ドライブに出かけたりして外の空気と触れ合うことができるようにしています。

施設開所当時は隣に移転前の浜田医療センター(旧国立浜田病院)があり、偕生園の主治医を担当していただいた時代もありました。今は沖田内科医院の院長に毎週火曜日に主治医として往診に来ていただいています。日頃の体調管理はもちろんのこと必要に応じて医療センター受診の指示を受けて、受診しています。また、体調が悪化した場合も主治医の指示で救急車を利用し、浜田医療センターの救外で診てもらうこともあります。入院した際は地域連携室と細かく連絡を取り合っており、連携できているので非常に助かっています。

偕生園の他に島根県社会福祉事業団には5つの特養がありますが、いずれも老朽化が進んで、順次改築工事を終えています。当施設も現在「1期工事」として先に40床分の改築工事を行っています。全ての工事が完了するのは平成30年2月になる予定です。改築後は全室個室のユニット型特養になりますが、新しい理念である「のんびりゆったり過ごせる住まい、安心して笑顔で過ごせる暮らし。」を目標に、よりよいサービスが提供できるよう努めたいと思います。

園長からのメッセージ

いつでも地域の方々が気軽に出入りできる親しみのある施設、また、いざというときには一番に頼りにされる施設になりたいと考えています。改築後の施設にはパブリックスペースを設けています。地域の方々はもちろんのこと、市民の皆さんに、気軽に足を運んで、活用していただきたいと思っています。



偕生園

園長 佐々木 真紀子

〒697-0024

島根県浜田市黒川町196-1

☎0855-23-5755 FAX0855-23-7445

お問い合わせ受付時間 月~金…8:45~17:30